

# 輸出事業計画

## ※申請者名：株式会社みちのくクボタ、品目：コメ

### 1. 輸出における現状と課題

#### 【現状】

- ・日本国内の米需要の減少を見据え、海外における日本産米の販路開拓による新たな需要創出を図ることを目的に、クボタと連携しながら平成27年から輸出用米の取組を開始。
- ・輸出先国は、香港、シンガポール、アメリカ（ハワイ）。  
いずれも家庭内食よりも中食・外食の比率が高いため、業務用をメインに販売。
- ・青森県では「まっしぐら」を選定。まっしぐらは粘り気が少なくあっさりとした味わいであるため、長粒種から短粒種への導入として最適であり、値ごろ感も相まって海外でも¥の需要が拡大している。

#### 【課題】

##### <生産段階>

- ・海外産米との価格差や業務用という用途を考慮すると、日本国内での一般的な主食用米と比べて、コスト競争力が最大の課題となる。
- ・令和6年以降主食用米の価格が高騰し、輸出用米から主食用米への切り替えが増加

##### <流通段階>

- ・輸出拡大に向け集荷量拡大を図る必要があるが、集荷業務のマンパワー確保及び新市場開拓用米を保管するための低温倉庫の確保が難しい。
- ・国内物流費が高騰し、保管倉庫と輸出港間の移送費用が増加している。

##### <販売段階>

- ・ベトナム産ジャポニカ・アメリカ産中粒種などの海外産米と競合する中、現地の外食業者及び消費者に対し、日本産米の特徴や魅力をどのように訴求していくかが課題となる。

### 2. 輸出事業計画の取組内容

#### <生産段階>

- ・本業である農業機械メーカーのグループ企業として、令和7年度までに、田植機・トラクタ・コンバインの自動運転やKSAS（KUBOTA Smart Agri System）などのスマート農業、鉄コーティング直撒栽培や節水型乾田直播などの省力栽培技術を生産者へ提案し、輸出用米生産者の省力化や低コスト生産に貢献していく。

#### <流通段階>

- ・令和5年より県内の米穀事業者と連携し、集荷業務の分業化を推進している。
- ・輸出港に近い保管倉庫を活用し、物流費の削減を図る。

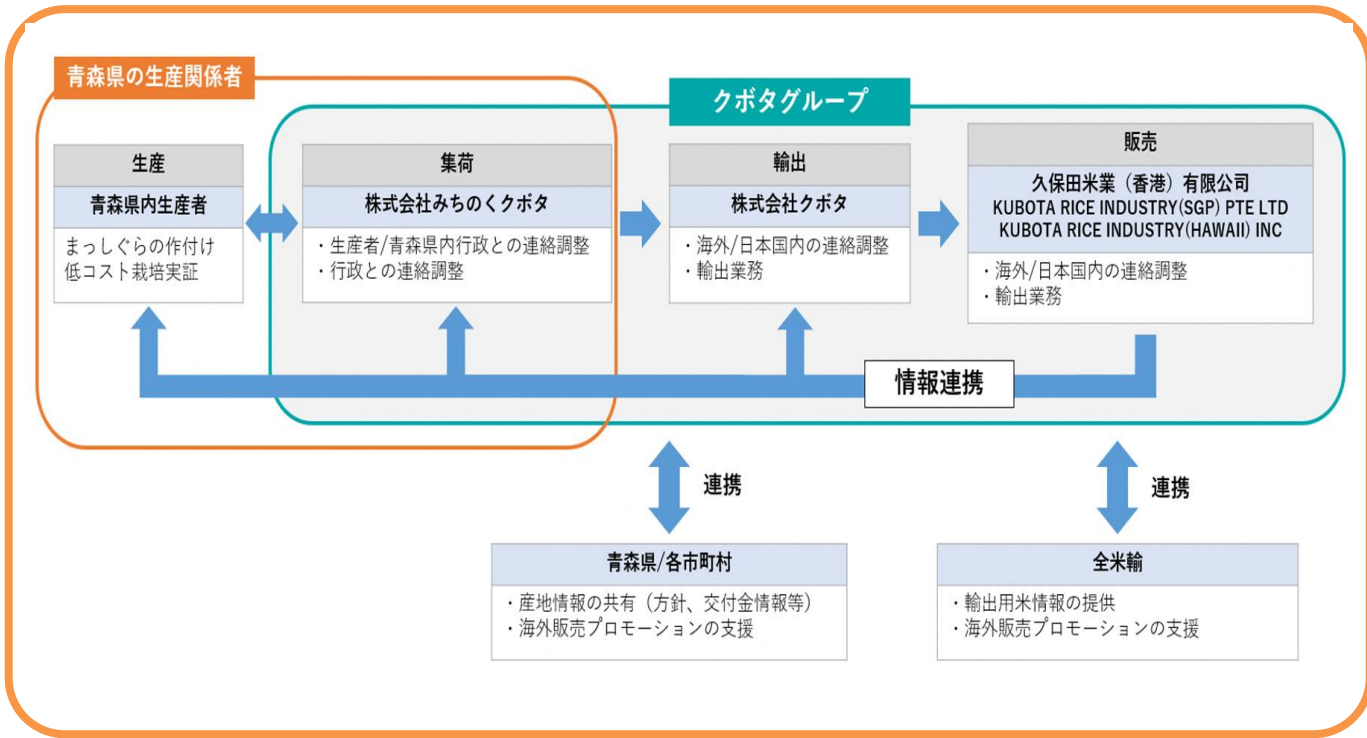
#### <販売段階>

- ・全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会による海外産米との比較調査結果等を活用しながら、海外産米との違いを現地の外食事業者や最終需要者に訴求していくとともに、業務用米適性が高く、長粒種から短粒種への転換に期待できる品種を提案して、令和7年度までに日本食のみならず中華料理やローカルフードなどへの使用拡大を目指していく。

# 輸出事業計画

※申請者名：株式会社みちのくクボタ、品目：コメ

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

		現状 (令和4年度)	目標年 (令和9年度)	備考
青森県	輸出額(千円)	110,000	150,000	
	輸出量 (t)	711	1,000	
	輸出先国	香港/シンガポール	香港/シンガポール/ハワイ	
	取扱量 (t)	985	1,200	